

南会津町の湿原を守る会



湿原の保護のほか、故徳三先生の研究もビデオを通して後世に伝えたい



足を運んで書いた植生図



「湿原は生きています」ビデオ完成!

六月から多くの皆さんにご協力いただいた湿原を中心とした保護啓発のビデオが完成しました。七月二十九日には県内に放映しその後教育用に編集。今後はこのビデオを活用して出前講座や貸し出しで湿原保護や環境保全の啓発を行います。会員が学校や各種団体、企業へ出向きたいと学校や任意団体へ講座の案内をしています。皆さんの地区やサークルなどにも講座を希望する団体がありましたらお気軽におたずねください。

6月勉強会（ワークショップ）湿原の現状と今後の課題等を出し合った



湿原の現地調査結果を町へ
六月二五日宮床、駒止を調査し踏み荒らしや木道の状態などをまとめ町へ資料の提供を行った。



↑駒止、水無谷地今年はワタスゲに癒された。↓南郷宮床

ビデオ作りの取材の様子



踏み荒らしの現状、かわいたコケ↑ 湿原のコケは水を蓄えるスポンジの役割をしています。一度踏まれたり、採られたコケは戻しても元には戻りません。

7月 田代山も調査。結果を教育委員会へ



駒止湿原にブナ植樹

十月一日には昭和村と南会津町教育委員会の合同で駒止湿原の周囲にブナ苗の植樹が行われました。この日は南会津町からは南会津町の湿原を守る会や針生、田島第二小、檜沢小学校の児童、昭和村からは、村の小学生の親子や村交流事業で訪れている埼玉県参加者などおよそ百二十人が参加しました。開会の挨拶で昭和村馬場村長は「植樹を通して自然保護の意識を」。南会津町横山教育長は「保水性の良いブナを植えて湿原を守り私たちを癒してくれる貴重な自然を次の世代に引き継ぎたい」と挨拶し植樹が開始されました。参加者には昭和村の織姫の3人も参加し「来年又、このブナに会えたら」と願って植えていました。

←7月 伊南、三つ岩調査
上るのに3時間以上。所々に湿原が

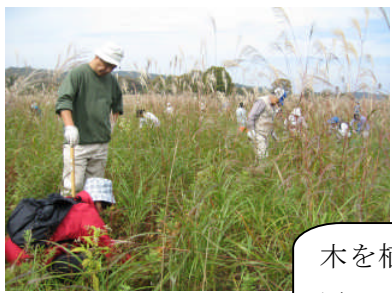


横山教育長さん、力あります!



湿原を通過して植樹場所へ

十月一日植樹



木を植えることを通して環境を守る大切さも勉強



木道を敷いた頃の様子を詳しく知ってますよ!

出前講座 11月22日



針生小学校、地域の湿原を題材に講座 手づくり模型でミズゴケでの大切さを説明する君島さん。ビデオを町へ寄付 町内全小・中・高等学校へ。手渡す樋口副会長

11月24日寄付



ご協賛金を頂きました皆様、ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。資金を基にビデオづくりや調査や出前講座、保護マップづくり等、保護啓発活動を行います。今後ともよろしくお願ひ致します。 会長、会員一同

ありがとうございました



ブナは天然のダムとも言われ洪水や濁水を防ぎおいしい水を与えてくれます。雨が降っても林があれば湿原への水はゆっくり流れます。ブナは水を蓄え湿原を守っているのです。このブナが成木になるには百年から二百年かかります。小さな苗が成木となるのは何十本かのうち一本ともいわれています。二〇〇六 6月撮影

撮影メモ



まだ裸地のままの湿原周囲 18年6月18日撮影 今後どのように植樹するか教育委員会さんと協議しながら植えたい。

大谷地を通り駐車場へ戻る農道を7、8分歩くと左側に樹齢三百年とも思える大きなブナが風に葉を揺らしながら立っている。水分が多くストーブの薪にもなれず不要とされたこのブナは今、森の水を守っている。時には動物の食料となり小さな植物の傘となり台地を見守ってきた。ふと地面を見ると小さな苗が顔を出している。ここは芽が出るのに適した良い地なのだ。しかしその20mほど離れたくぼ地は茶色の裸地で何も良い地に落ちなかった種は芽を出すが出来なかったのだ。どんなところにブナ苗を植樹するかはどんな人よりもずっと湿原を見続け自然を守ろうとするみんなが知っている。

文責・編集

事務局 阿部徳子 0241-62-1248

二〇〇六 十二月(改訂版)